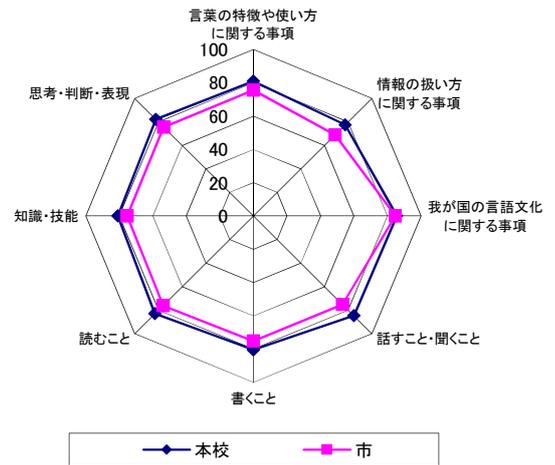


宇都宮市立陽東中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	81.0	75.6	66.5
	情報の扱い方に関する事項	77.5	69.0	62.0
	我が国の言語文化に関する事項	85.5	84.7	78.2
	話すこと・聞くこと	84.7	75.3	69.4
	書くこと	80.5	75.2	65.1
	読むこと	83.0	76.2	68.8
観点別	知識・技能	80.8	75.3	66.7
	思考・判断・表現	82.2	75.6	67.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

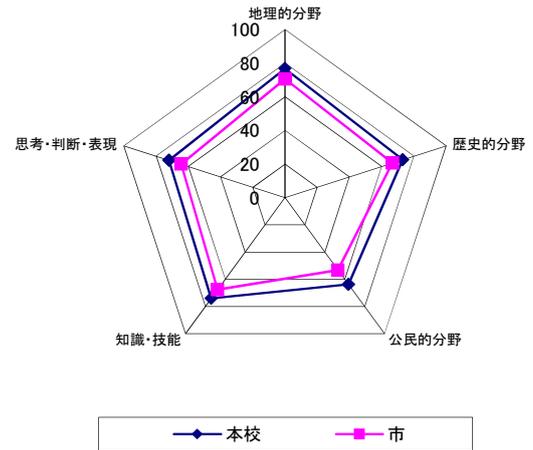
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	○市の正答率と比較すると、5.4ポイント上回っている。昨年度のポイントと比較しても、市の正答率はあまり変わっていないが、本年度の方が昨年度のポイントより3.0ポイント上回っている。 ●文法の助動詞について理解しているかを問う設問では、市の正答率と比較して2.2ポイント下回っており、普段から文法を苦手としている生徒が多いと考えられる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・漢字の読み書きでは、定期的に小テストを行うことで練習を促すようにしていく。 ・文法・語句に関しては、第1学年の学習内容からつまづいている様子が見られる。プリントや各自が持っている問題集で反復練習に取り組み、小テストで定着の確認をしていく必要がある。確実な品詞の理解ができるよう授業の工夫を考えていく。
情報の扱い方に関する事項	○市の正答率と比較すると、8.5ポイント上回っている。情報の発信者側、受信者側としての注意点を理解しながら答える問題について問う2つの設問とも、市の正答率との比較で大きく上回っている。	・メディアに頼りすぎず、自分で考えることの重要さも認識させていき、話すことや聞くこと、書くこと、読むことに繋げていく。メディアの使い方などを確認する学習を取り入れる。 ・現代社会で情報の手段としてさまざまなメディアが利用されているため、メディアリテラシーを身に付けさせることも大切である。情報の発信者側、受信者側としての注意点を理解しながら、情報を扱う指導をしていく。タブレットや図書を活用した学習を行うことで、メディアについて考えさせる。
我が国の言語文化に関する事項	○市の正答率と比較すると、0.8ポイント上回っている。 ●正答率は市よりも上回っているが、古典の作品を扱う単元では、生徒の理解度は低いものの現代語訳があったため、正答率が上回ったと思われる。	・古典を苦手とする生徒が非常に多いため、古典作品に関する学習以外に、昔の人々の生活や考え方などにも触れ、興味を持たせる工夫が必要である。 ・古典作品を理解させるために、写真や映像など視覚に訴えた方法での指導を取り入れる。 ・古典への苦手意識を少なくさせるために、短く分かりやすい内容の古典作品に取り組みさせる。
話すこと・聞くこと	○市の正答率と比較すると、9.4ポイント上回っている。特に、発表の内容を聞き取り、自分の考えを分かりやすく伝えることを問う設問や、自分の考えを明確にし、論理的に話しているかを問う設問で、市の正答率を大きく上回っている。 ●文法の助動詞について理解しているかを問う設問では、市の正答率と比較して2.2ポイント下回っており、普段から文法を苦手としている生徒が多いと考えられる。	・話し合い活動やペア学習を行い、相手の考えを正しく理解する練習を取り入れる。 ・特にスピーチの学習で、相手の様子を見ながら自分の意見がどこまで伝わっているのかを考えながら話をしたり、相手に理解してもらうための工夫をしながら伝えたりする指導を行う。 ・語彙力を高め、聞き手にふさわしい語句や表現を考えて伝える学習を取り入れる。
書くこと	○市の正答率と比較すると、5.3ポイント上回っている。特に、紹介文章を書くことを問う設問の正答率は、すべてが市の正答率を大きく上回っている。 ●文章を書く内容の問題で、今後の自分について考えを明確に書くことについては市の正答率との大きな差がなかった。	・自分の考えをもつことに苦手意識をもっている生徒が見られるため、話し合い活動など他者との交流を工夫する。 ・語彙力を高める指導や表現技巧などの表現の仕方の指導を行う。 ・文章を読み、文章構成や表現について学び、書く学習に繋げる。 ・文章を書くことが苦手な生徒には、構成の型を示して書く練習に取り組みさせる。
読むこと	○市の正答率と比較すると、6.8ポイント上回っている。特に、説明的な文章を読んで内容を理解し、論理の展開の仕方を捉えているかを問う設問では、市の正答率を大きく上回っている。	・単元末テストを実施し、間違いが多かった設問の解説をしながら、内容の確認をする。 ・意味調べなどの活動を増やすことで語彙力を高め、文章の情景や内容を深く読み取る指導を行う。 ・図書室を利用してさまざまな図書に触れさせる。特に、説明的な文章を苦手とする生徒が多いため、教科書以外の文章を読ませたり構成を考えさせたりすることで、読解力を高めさせたい。

宇都宮市立陽東中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	地理的分野	76.7	70.5	62.1
	歴史的分野	73.0	66.6	57.8
	公民的分野	63.9	53.3	45.2
観点別	知識・技能	74.1	67.6	59.2
	思考・判断・表現	72.0	64.5	55.7

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

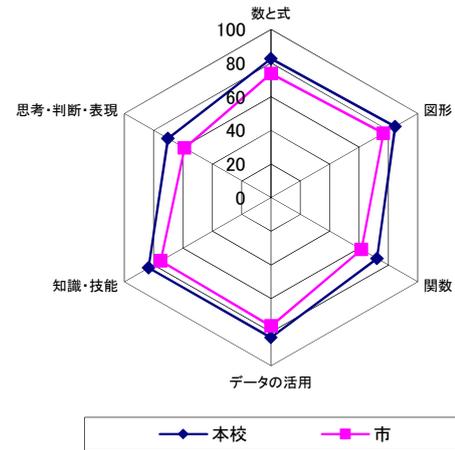
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	○市の正答率と比較すると6.2ポイント上回り、すべての設問において市の正答率を上回っている。特に日本の資源・エネルギーにかかわる課題について、資料をもとに考察する設問では、12.4ポイント市の正答率を上回っている。 ●中国・四国地方の地域活性化の取り組みについての設問では、13.5ポイントが無回答だった。	・身近な出来事をきっかけとして関心をもたせ、さらに地理的事象を組み合わせることで、知識の習得とともに、世の中の出来事を多面的、多角的にとらえる力を身に付けられるよう工夫する。 ・授業の中でICT教材を有効に活用し、地図資料や統計資料などを多く用いて、その地域やその国の特色や、その資料から分かることを的確に読みとり、記述する活動を多く取り入れる。
歴史的分野	○市の正答率と比較すると6.4ポイント上回っており、すべての設問において市の正答率を上回っている。また、鎌倉時代から室町時代までの歴史の流れについて考察する設問では、13ポイント市の正答率を上回っている。 ●江戸時代の学問についての設問では、10ポイントが無回答だった。	・複数の資料を組み合わせ読み取ったり、必要な資料を選択して読み取ったりする活動を行い、資料を多面的・多角的に読み取る力を身に付けられるよう工夫する。 ・文化の特色については、代表する人物や作品だけでなく、その文化が成立する時代の流れについても理解することで、知識を習得できるようにする。
公民的分野	○市の正答率と比較すると10.6ポイント上回っており、すべての設問において市の正答率を上回っている。特に大日本帝国憲法の制定について考察する設問では、11.9ポイント市の正答率を上回っている。 ●さまざまな新しい人権が認められるようになった背景について考察する設問では、14ポイントが無回答だった。	・身近な出来事をきっかけとして関心をもたせ、それを公民的事象と関連付けることで授業につなげていけるようにする。 ・知識の習得とともに、人権問題や、政治問題、国際問題・日本の現状と課題など様々なことについても考えさせ、思考・判断・表現力をのばしていきたい。

宇都宮市立陽東中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	82.7	73.8	71.4
	図形	84.6	76.7	67.9
	関数	72.3	61.6	52.2
	データの活用	83.3	76.4	65.4
観点別	知識・技能	83.4	75.2	69.9
	思考・判断・表現	70.2	58.9	48.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

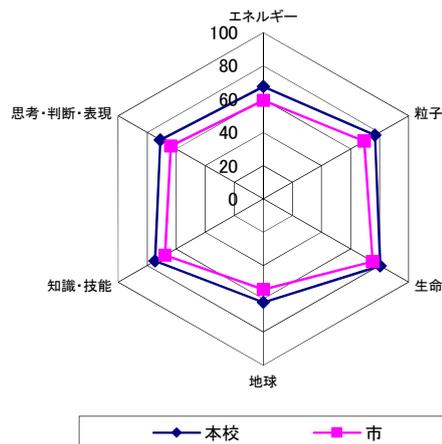
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○市の正答率と比較すると8.9ポイント上回っている。特に文字式で表す問題や立式をする問題では、市の平均正答率より約17ポイント、全国の前年より約30ポイント上回っている。 ●多くの設問で市や全国の前年を上回っているが、平方根の根号を含む式の減法、平方根の考え方をを用いた展開ではあまり差がなかった。	・引き続き、反復学習を行い、基本的な計算問題が正確に解けるようにしていく。 ・根号を含む計算では、文字式の計算と似ていることを確認させ、苦手意識をなくしていく。 ・乗法公式や因数分解の公式を正確に使えるように練習をさせていく。
図形	○市の正答率と比較すると7.9ポイント上回っている。特に作図の問題では、全国の前年が低い中で、市の正答率より約12ポイント、全国の前年より約20ポイント上回っている。 ●どの設問も市や全国の前年を上回っているが、平行線と同位角、錯角の関係と二等辺三角形の性質を用いて、角の大きさを求める問題の正答率が8割未満であった。	・今回、証明問題は出題されなかったが、証明問題に取り組む際は、辺や角が等しい根拠を考えさせたり、どの合同(相似)条件に当てはまるか考えさせたりするなど、思考力を高めるように工夫する。 ・3年生になると、1年生で習った平面図形・空間図形の公式などを忘れてしまう生徒がいる。授業の中でも、既習事項を復習できる機会を設ける必要がある。また、いろいろな作図方法も再確認する必要がある。
関数	○市の正答率と比較すると10.7ポイント上回っている。特に1次関数を利用して費用を求める問題では、市の正答率より11ポイント、全国の前年より34.1ポイント上回っている。 ●どの設問も市や全国の前年を上回っているが、2次関数のグラフ上に頂点をもつ正方形の辺の長さを求める問題の正答率が5割未満だった。	・関数の発展問題では、分かっている情報をグラフに書き出し、他に求められる値がないかを考えさせる。 ・関数の表・式・グラフのつながりをよく確認し、比例定数や傾き・切片がどこに表れているのか分かるように指導する。
データの活用	○領域全体では市の正答率を6.9ポイント上回っている。ヒストグラムの特徴を読み取り、説明すべき事柄について数学的に説明する問題では、市より9.7ポイント、全国より26.5ポイント上回っている。 ●多くの設問で市・全国共に平均点を上回っているが、数学的に説明する問題の無解答率が目立っていた。	・データの活用分野では、新しい語句が多く出てくるので正しい意味を理解させ、それらを使って説明するように指導する。 ・数学的に説明する問題の無解答率が計算問題よりも高いので、普段の授業の中で、自分の考えを少しでも文章にするよう指導する。

宇都宮市立陽東中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	67.6	59.3	62.1
	粒子	76.7	69.5	66.8
	生命	80.5	75.2	70.9
	地球	62.2	54.4	52.0
観点別	知識・技能	74.6	67.7	67.2
	思考・判断・表現	71.0	63.7	60.8

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

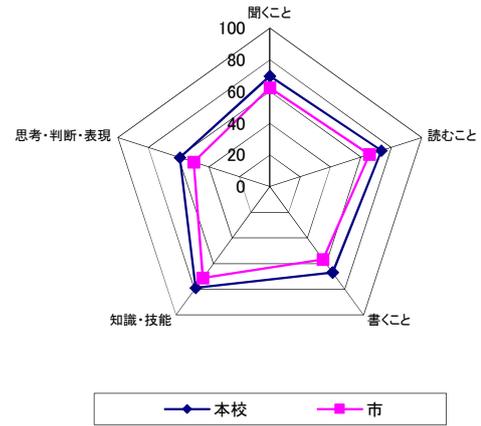
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	<p>○市の正答率と比較すると8.3ポイント上回っている。特に光の性質の単元では、市の正答率より9.5ポイント上回っているなどから、全体的に観点や基礎・活用による差は見られなかった。</p> <p>●電流と磁界の単元で、電流を流したコイルのまわりに置いた方位磁針の針の向きに関する思考観点の問題では、正答率が39.8%で、市の正答率を0.2ポイント下回っているため改善が必要である。</p>	<p>・電流と磁界の単元では、磁石のつくる磁界や導線の周りにできる磁界、コイルにできる磁界、磁力線の向きなどを実験の様子を振り返りながら、正確に理解させる必要がある。また、コイルのまわりにできる磁界の規則性について1本1本の導線がつくる磁界が影響していることを、演示を工夫し視覚的に理解させる必要がある。</p>
粒子	<p>○市の正答率と比較すると7.2ポイント上回っている。特に水溶液とイオンの単元では、市の正答率より10.9ポイント上回っている。</p> <p>●物質の成り立ちの単元で、化学反応式の記述の仕方に関する知識観点の問題では、市の正答率を7.8ポイント上回っているものの、正答率が58.7%と低いため改善が必要である。</p>	<p>・物質の成り立ちの単元では、原子、分子、単体、化合物の区別を通して、さまざまな物質についての知識を身につけることで基礎的な力をつけさせる。</p> <p>・化学反応式の記述の仕方については、化学変化の前後で原子の数を合わせることを確認させ、原子・分子のモデルから化学反応式をつくる手順を身に付けさせる問題演習などを丁寧に行う必要がある。</p>
生命	<p>○市の正答率と比較すると5.3ポイント上回っている。特に、生物の成長の単元では、市の正答率より7.8ポイント上回っており、正答率がすべての小問で80%を上回っている。</p> <p>●植物の分類の単元で、タンポポの正しいスケッチ法に関する知識観点の問題では、市の正答率を3.8ポイント、全国の正答率を7ポイントと大幅に下回っており改善が必要である。</p>	<p>・植物の分類の単元では、いろいろな生物の共通点と相違点に着目しながら、生物の観察と分類の仕方について説明し、基本的な概念や原理・法則などを理解させる必要がある。</p> <p>・身近な生物の観察の単元では、正しいスケッチの方法や記録方法を説明し、実践・添削することで正しい技能を身に付けさせる。</p>
地球	<p>○市の正答率と比較すると7.8ポイント上回っている。特に気象の観測の単元で、大気圧の大きさを求める問題では、市の正答率より14.1ポイント上回っている。</p> <p>●気象の観測の単元で、大気圧を利用したポンプの仕組みに関する思考観点の問題では、市の正答率を6.0ポイント上回っているものの、全国の正答率を10.4ポイントと大幅に下回っており改善が必要である。</p>	<p>・気象観測の単元では、圧力や大気圧の定義と圧力の求め方や単位をしっかりと理解させる必要がある。そのために、力と圧力の違いや、単位面積の考え方を丁寧に説明する。その上で、大気圧が関係している身近な現象の説明などに発展できるよう指導の工夫をする。</p>

宇都宮市立陽東中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	69.8	62.4	59.8
	読むこと	73.5	65.7	58.5
	書くこと	66.9	56.8	43.5
観点別	知識・技能	79.0	71.2	65.3
	思考・判断・表現	59.1	50.1	40.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	<p>○市の正答率と比較すると7.4ポイント上回っている。また、すべての設問において市の正答率を上回っている。特に、対話を聞き、その概要を捉えて適切に回答する設問では、市の正答率を8.8ポイント、全国の正答率を18.2ポイント上回っている。</p> <p>●英文を聞き、その内容を理解して英文の内容に合う絵を選ぶ(道具の説明)の設問では、全国の正答率を0.6ポイント下回っていた。</p>	<p>・授業中での教師やALTとの英語でのやりとりにより、英語を聞き取る力の向上に繋がっているため今後も継続していく。</p> <p>・生徒とALTとのスピーキングテストを定期的に取り入れ、実践的な会話力の向上を図る。対話の流れを掴み、質問に対する応答の仕方を身に付けさせる。</p> <p>・情報が複数含まれている会話を取り入れることで、必要な情報を聞き取る力を身に付けさせるよう指導していく。</p>
読むこと	<p>○市の正答率と比較すると7.8ポイント上回っている。また、すべての設問において市の正答率を上回っており、特に対話文を読み、間接疑問文の使い方について問う設問では、市の正答率より15.5ポイント、全国の正答率より16.8ポイント上回っている。</p> <p>●メールを読み、その概要を捉えて英文を完成する設問では、正答率は市や全国を上回っていたが、30.3%と低かった。</p>	<p>・基本文の口頭練習を十分に行い、文法事項の使用場面をイメージさせることで文法の活用方法を理解させる。</p> <p>・教科書の本文を活用し、代名詞が示している内容をその都度確認するなど、英文の意味を考させることで内容の理解につながるよう指導していく。</p> <p>・メールなどの短い文を読み取る上では、日時や場所、方法など、具体的に理解できるような指導をさらに増やしていく。</p>
書くこと	<p>○市の正答率と比較すると10.1ポイント上回っている。また、すべての設問において市の正答率を上回っている。特に、動名詞を用いて英文を書く設問では、市の正答率よりも11.4ポイント、全国の正答率より26.9ポイント上回っている。</p> <p>●対話の流れに合った英文を、相手に伝わるように書く(見た場所をたずねる)設問は、市や全国の正答率を上回ってはいるものの、37.3%と低かった。</p>	<p>・与えられた情報を把握し、時制を意識して英作文するなど、既習事項を生かして、正しい語順で自分の意見や考えを表現できるように活動を多く取り入れていく。</p> <p>・教科書の単元内容をもとに、生徒自身の考えや気持ちを、既習の単語や文法を使って英語で表現していくよう指導する。</p>

宇都宮市立陽東中学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
(1)学習規律の徹底 (2)基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着	<ul style="list-style-type: none"> ・地域学校園で取り組む「学習の約束」の実践 ・各教科における授業の約束の設定と指導 ・各教科における基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着 ・身に付けるべき学習内容の確実な習得を目指す、単元や題材ごとに学習内容を復習させる場の設定 ・授業の中で身に付けさせたい学習内容をまとめたり、学習内容や思考過程を振り返ったりする場の設定 	<p>(6)の「授業への取組」については、全学年、市の肯定的割合を上回っているものがほとんどであり、学習規律が身に付いていることがわかる。</p> <p>(2)の「授業がどの程度分かるか」という質問についても、すべての学年において市の肯定的割合を上回っており、「学習していておもしろい、楽しいと思うことがある。」や「学習していて色々なことが分かったり、できるようになったりすることはうれしい」と感じる生徒の割合も多く、学習が将来の仕事や生活に役立つと考えている生徒も多い。</p>
(3)主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業改善	<ul style="list-style-type: none"> ・互いを認め合い、協働して課題に取り組む学び合いの充実 ・授業力向上に向けた「一人一授業」及び授業研究会の実施・基礎的・基本的な知識の定着を目指すAIDリルの活用 ・タブレット端末を活用した個別最適化された学習の実践 	<p>「グループなどへの話し合いに自分から進んで参加している」という生徒は、84%を超えている。中でも自分の考えを根拠をあげながら話すことができる「ものごとを色々な視点や立場で考えている」と肯定的に回答している生徒も、1学年、2学年で、市より上回っており、主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業実践の成果と考える。これから、すべての学年で市より上回れるよう、引き続き指導を充実させていきたい。</p>
(4)個に応じたきめ細やかな指導の充実 (5)家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・発達の段階や各教科の実態に応じた適切な課題や自主学習ノートの活用 ・学習支援「ステップアップ学習」の実施 	<p>家庭学習においては、平日でも土日でも1時間以上取り組んでいる生徒が約80%おり、市の平均を大きく上回っている。3年生においては3時間以上取り組んでいる生徒が市より13%も多く、習慣化が図られている。</p>

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

- (1)全国・県・市の学力調査から
 ・全国学力学習状況調査、とちぎっ子学習状況調査・市学習内容定着度調査では、全ての教科、全ての領域・観点において国・県・市の平均正答率を上回っている。どの教科も基礎的・基本的な力は定着していると考えられる。しかし、活用する力については、まだまだ課題があり、各調査結果を受け止め、対策を練り、指導していく必要がある。特に「問題を読みとり内容を正しく捉えること」「相手が納得できるように具体的な根拠を挙げて説明すること」「複数の資料・データを整理し、自分の考えを表現すること」については、全教科共通して取り組むことが効果的である。それらの力を付けるためにどうするかは全職員で共通理解と情報の共有化を図り、苦手分野の克服に努めていく。また、学習内容の定着度上位群と下位群との二極化見られることから、上位群の更なる向上と下位群の引き上げに一層努力をしていきたい。
- (2)アンケート調査から
 ・スマホやタブレット使用に関して、3時間以上使用している生徒が、市の回答より1学年で多くなっている。また、フィルタリングをかけていない生徒も市の回答より、1学年、3学年で多くなっていることが心配である。全職員で情報を共有し、各便利などで家庭への啓発を行い、改善させていきたい。
 ・学習に関しては概ね良好な結果となっているため、生徒の興味関心を喚起するような授業の展開、学習に向かう姿勢や取り組み方については、今後も継続して指導していきたい。